

高校生看護実習

兵庫県立社高校 3年生 6名が、12月14日より3日間当院にて看護実習を行いました。

今年度も将来、看護師・理学療法士を目指す学生さんを3日間受け入れました。どの生徒様も笑顔で活発に参加してくれました。担当看護師と共に入院中の患者さんの治療援助・看護ケア・介護等を見学し一緒に出来る事は実際に行なってもらう中で共通した感想は、患者さんとのコミュニケーションの難しさでした。そして感心させられた事は、どんな多忙な時でも看護師たちが一人ひとりの患者さんに優しく対応する姿でした。また一方では、入院生活を援助する上で大きな課題となっている超高齢化社会がもたらす現状をみる機会にもなったと思います。彼らは今回の体験を通して何を感じとってくれたのでしょうか……。

患者さんに安心してもらえるような言葉選びをすることはとても難しいなと思いました。病院は患者さんにとって不安がいっぱいある場所だけど、それをいかに安心して日々を暮していくための手助けができるかがコミュニケーション能力の大切につながっていくのではないかと思います。これからの生活でできるだけ多くの人と色々なことについて話し、聞く力、観察する力をつけてコミュニケーション能力を高めていけるようにします。



看護師になりたいという気持ちがより一層強くなりました。看護にはいったいどうゆうものが必要なのか、看護を仕事にする上で大切なものは何かをインターンシップを通して学ぶことが出来ました。病院内の雰囲気もとても良くてしんどい仕事だけどその分やりがいがあり、とてもすばらしい仕事だなと思いました。

机の上だけでは学ぶことができないたくさんのことを目で体で肌でかんじることができました。患者さんからの感謝の言葉の大きさに触れることができました。

食器を片づけるのは予想以上に大変でした。注射器には初めてさわって、何回も練習したら慣れて、少しくましくいくなりました。看護師やPTのみなさんがやさしく教えてくれたのでいい経験になりました。

働くということへの理解が深まった。どんな時でもコミュニケーションが大切なことが分かった。患者さんと会話をしているうちにとても楽しくきて、患者さんから「頑張ってるね」や「ありがとう」と言われた時は本当にうれしかった。

